



とちの実 100号記念集

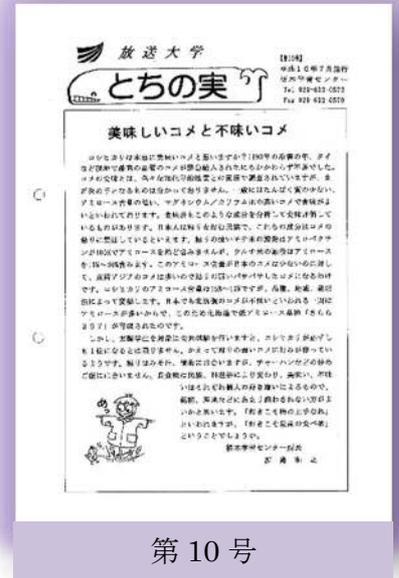


栃木学習センターの機関紙「とちの実」は、平成7年12月に創刊号が発行されて20年が経ちました。そして、平成28年5月で記念すべき100号となります。初めの頃は4ページだったのが、今では16ページと中身も充実してきました。

毎号の発行にご尽力、ご協力いただいている方々に感謝とお礼を申し上げます。今後も皆様のご協力を賜りながら、継続、充実させていきましょう。



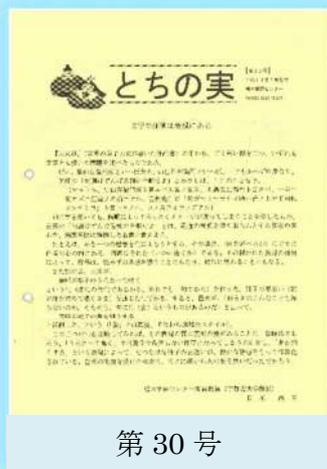
創刊号



第10号



第20号



第30号



第40号



第50号



第60号



第70号



第80号



第90号



学生からのショートメッセージ

～ 私と放送大学 ～



「偉い先生方と偉い学生達」

澤田 ソノさん（名誉学生 5コース卒業）

光陰矢の如しと言うが、放送大学栃木学習センターが設立されて、もう20年になるとは早いものですね。一生懸命勉強しましたよ。

入学試験が無い学校なんて他にないです。入試があったら、私なんか絶対入れません。ありがたい事に入れちゃったのです。これで私も大学生。あこがれていた大学生ですもの感激です。この私が大学生だなんて。不思議な気持ちでした。

それで一生懸命勉強したのになんと難しいことか。とにかくテレビに出て対談するような偉い先生方が教科書を書くのですから、一冊教科書を読むのに私は一ヶ月もかかってしまうと言うのに、二日で一冊読む人もいると思えば、試験の前の晩に一冊、目を通して試験に臨むのだと言う人もいて、とにかく偉い人たちの一番後について行きます。



「そんな筈ではなかった」

大塚 博久さん（生活と福祉コース）

3年半ほど前、宇都宮大学に、留学生の博士論文発表会のために行った時、帰りに、何気なく放送大学栃木学習センターに寄った。

そこで、同センターの職員 N さんに放送大学の説明を受け、まるで催眠術に罹ったように入学手続き（選科履修生）をしてしまった。

2年目には、これも催眠術が解けないまま全科履修生の手続きをしてしまった。今度は職員 I さんの催眠術である。

以来、昼は、自然相手の農作業。夜は、疲れた体に鞭打ってパソコンとの睨めっこ。“そんな筈ではなかった”最近、ようやく催眠術から覚めたようである。

この“そんな筈ではなかった”の「筈」は、弓を射る時、矢が弦から外れないために、矢の先端についている「筈（はず）」からきていると言う。

弓をキリリと引き絞り、的に向かって矢を射たところ、とんでもない方向に矢が飛んでいってしまった。この時、“そんな筈ではなかった”と思うのである。

そんな気持ちでの放送大学生であるが、平成27年度1学期で、全科履修生として2年半、思えば、超一流の先生方の授業にのめりこみ、気がつく卒業要件124単位に、不足数40単位のところまできている。

“そんな筈ではなかった”この道が、73歳の私には「真理の道」なのかもしれない。



「印象に残った講義」

瀧澤 明夫さん（人間と文化コース）

印象に残った講義は、大橋理枝先生の『英語Ⅱ』The Book of Teaです。その内容の中に、お茶を立てる、鉄瓶の音が滝を包む雲のような、波に岩にぶつかって砕ける音のような、雨あらしが竹林を通り過ぎるような、そんな音に聞こえる。

岡倉天心は、素晴らしい英文の描写で表現したと思います。そしてこんなに、お茶の世界が奥深く、高尚なものとは知りませんでした。これからも感銘を受ける講義を探しつつ、放送大学に通いたいと思います。

「フランス語が話せると思い込む」

上村 隆行さん（生活と福祉コース）

大分前になりますが、フランス語の授業がありました。作新学院大学の女性の先生が講師でした。その先生は大変厳しく教えてくださり、学生は青くなりました。10分位でボンジュール、ムッシュー・・・、それに答えなければなりません。

二日目は何人かは脱落するかと思ったら、誰一人脱落しませんでした。先生の方がびっくりしたようでした。休み時間に学生同士語られるのは「厳しい」「はっきり言うと、帰りたい」「でもここまで来たら意地でも単位を取るぞ」「頑張るだけだ」

やっと二日間の講義が終わりました。先生は「これからもフランス語を学び続けるのですよ」心の中では誰が学ぶものかと思いましたが、なんだか俺はフランス語が話せる、自己紹介はできるし、話せるぞ、しかし単語数が足りないからな、でも二日間の授業でここまで出来たとは、厳しいことは良いことだと思いました。



「認知症予防に放送大学」

田川 久美子さん（生活と福祉コース）

私は看護師です。61才で国家資格をとる思い立ち、通信で看護師国家資格を取りました。そのとき放送大学の教科を取らなければならず、放送大学に入学しました。

資格取得後は、知りたいこと、興味のあることを取っています。栃木県に引っ越してからは、面接授業等で知り合う人ができて、色々教えて頂き、苦手な外国語をお蔭様でクリアしました。卒業が見えてきました。

私の大好きな日野原重明医師は、常に新しいことにチャレンジして楽しむことが認知症予防になるとのことで、私も日野原先生を見習って、常に面白がって放送大学を続けたいと思います。まずは、卒業に向かって！

看護職50年となりましたので、看護学士も目指したいと思います。その後は海外旅行を目的に、苦手な言語学にもチャレンジしたいと思っております。生涯現役を目指して！



「ビッグになるため」

藤田 啓さん（社会と産業コース）

まず言うておおくが、ふざけてこの題名を書いたわけではないので、ご理解いただきたい。

私は2011年6月7,8日に下野新聞の発達障がいの特集に掲載された。それを機会に更に名を上げるために、教養を身に付け、広げたいと考えた。

そして、2013年4月に本学に入学した。最初は社会保険労務士の受験資格を取るために、62単位の取得を目指した。

現在は、気が変わって卒業を目指したいとも思っている。法律の科目を主に受講しており、充実している。

また、現在は「放送大学で楽しむ会」でボウリングを楽しんでいる。過去に県の障がい者スポーツで上位に入っており、自信がある。スコアは150前後だが、もし200を超えたらプロボウラーを目指したいと考えている。

「楽しく学ぶ」

吉住 智江子さん（心理と教育コース）

2011年に選科履修生として入学し、翌年全科履修生になりました。そのとき卵巣がんと診断され手術、抗がん剤治療を6クール行いました。入院中は教材一式を持参し教科書を読みレポートをやりました。家に戻ってから「かしこくなる患者学」を聴いて「がんでは死なない行け行けドンドンよ」の教授の声に励まされ、辛い抗がん剤治療も実践だと思い明るく過ごしました。

学んでいると知らないことがたくさんあり「なるほど、へー、そうか」と、とても面白く楽しいです。面接授業で皆さんに逢って元気を貰っていますが、体調が悪くなることもあり、いつも気遣ってもらっています。学ぶことに早い遅いはない、その人が学びたいと思ったときに楽しく学べてよい時だと思います。私は放送大学で学ぶことにより、視野が広がり気持ちも若返りとても良かったです。

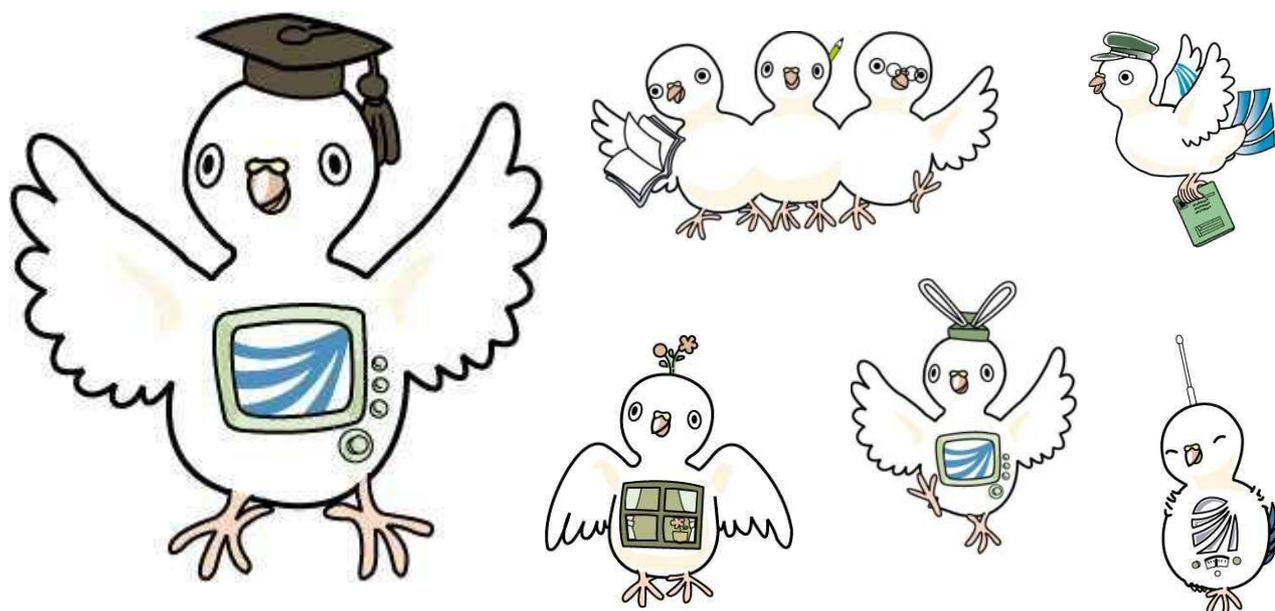
「生涯学びたい放送大学」

渡邊 幸雄さん（自然と環境コース）

入学して11年、80才になった。ボケの予防が目的だった。今では授業が生活の一部になっている。何より時間をもてあますことがないのが良い。単位認定試験に向けて、予定表を書きこんでいる。また、試験を受ける時の緊張感が好きだ。出来た感じを○、△、×と分けているが、○の時は気分が良い。結果は別にして半年間勉強し、試験を受けられれば良いというのが現状である。

今、5コース目の自然と環境を学んでいる。夢かも知れないが、6コースのグランドスラムを目指している。その後は大学院は無理としても、科目生となって勉強できればうれしいと思います。生命ある限り勉強できる放送大学はありがたい。学習センターが更に永く発展してくれることを願っています。

やりたいことをやり、行きたい所にいける今、ひよっとすると、今が青春かも知れない。



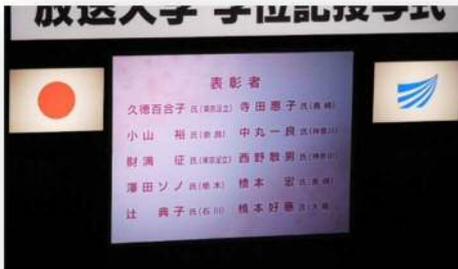


～ 栃木学習センター ～ 初！名誉学生 澤田ソノ様



名誉学生とは教養学部の全コース（又は専攻）を終えた全科履修生の方で、人物、学習態度が良好である方に対して放送大学名誉学生の称号をお贈りし、表彰状及び副賞の授与を行っています。称号なので終身有効です。

この度、栃木学習センターで初となる【名誉学生】が誕生しました！！澤田さんは、「人間の探究」「発達と教育」「生活と福祉」「社会と産業」「自然と環境」の5コースを卒業されました。



平成 28 年 3 月 26 日（土）NHK ホールで行われた、平成 27 年度学位記授与式にて表彰されました。

栃木学習センター 20年の歩み

1995年に栃木学習センターが設置され、2015年で20年になりました。その節目として、20周年記念誌を作成しました。談話室に閲覧用として配架してありますので、ご覧ください。





おもしろ授業、拝見！

【平成27年度第2学期特別ゼミ】

簿記一日体験トライアル



↑ 作新学院大学教授 中島洋行先生

簿記の学習をこれから始めたいと考えている学生、あるいは放送授業の「初級簿記」の履修を検討している学生を対象にしたゼミです。これまで簿記・会計の学習経験がまったくない学生でも理解できるよう、簿記の最も基本的な手続きである「仕訳」と「転記」をゆっくりと丁寧に解説していただきました。

受講した学生の声

「これまで聞いたことあるけれど意味のわからなかった用語が、理解できるようになった。」「会計って奥が深い。」「放送授業の初級簿記を履修する前に、このゼミを受けるとわかりやすい。」



【平成27年度第2学期特別ゼミ】

都市の樹木と森のウォッチング入門（冬～早春編）



↑ 宇都宮大学教授 大久保達弘先生

学内や近くの森（東峰町の落葉樹林）を歩きながら、野外観察、スケッチ、写真撮影を行った後、採取した枝、種子などを室内で細かく観察しながら、樹木と森の生活への理解を深めるゼミです。今回は冬から早春の都市の樹木と森林の生態について解説していただきました。



タイサンボク、ウダイカンバ、トチノキといった樹木の枝を採取しました。



実体顕微鏡を使用。樹種による冬芽や枝、種子や果実などの違いを観察・スケッチしました。普段目にする事の無い細かな樹木の生態に感動した様子でした。





 **放送大学**
栃木学習センター

〒321-0943 宇都宮市峰町 350

(宇都宮大学 峰キャンパス内)

電話 028-632-0572

FAX 028-632-0570